

サーバストレージ

1. 概要

サーバストレージは各個人の V-Campus のホームディレクトリ・Web サーバのコンテンツ領域等のファイルデータの保存先から、V-Campus で使用している様々な仮想サーバ（SPIRIT、授業支援システム等）の OS データ、システムデータの保存先、及び仮想サーバが動作するハイパーバイザーを有するシステムである。

2. 利用状況

(1). 2022 年度末のストレージの利用状況

- ① NAS 領域の使用量 : 約 31 TB
- ② 仮想サーバ領域の使用量 : 約 50 TB
- ③ QNAP 上のデータ使用量 : 約 49 TB
- ④ NetApp 上のデータ使用量 : 約 -- TB

(2). 2022 年度末のサーバ利用状況

- ① 仮想サーバ数 : 346 台（内稼働 291 台）

3. 2022 年度のまとめ

2022 年度は 2021 年度に倍増させたことを受け安定して運用が行えた。多くのシステムでデータの整理が行われたとみられることと、ATR CALL BRIX のサービス終了を受け容量の開放があったため、ストレージの総使用量は削減傾向となった。

バックアップについては仮想サーバの台数も増えたこともあり、2021 年度に 2 基増設した Cohesity の総データ容量が圧迫しつつある状況が継続している。

NAS 使用量について Blackboard のデータ使用容量の増加があったが、前年度増強したストレージにより容量不足に陥る状況はなく安定したサービスが提供できた。しかしながら、NFS サービスを提供している領域については、追加での容量拡張が難しい状態となり、新たにストレージサーバ NetApp の導入を行った。

新たに導入した NetApp については NFS サービスをメインに 2023 年度にかけてデータの移行と切り替えを実施していく見込みである。最終的に次期 V-Campus の更改に向けて、現 V-Campus のホームディレクトリや、仮想サーバの CIFS 領域を移行する予定としている。